

～ for the healing art of the 21st century ～

つるかめクリニック ニュース

つるかめクリニック広報誌

2022
6月発行

第 4 号

ミラザ新宿&小金井
新院長インタビュー!

つるかめ会の誇る
内視鏡検査

クリニックトピックス
・新宿つるかめクリニック
・ミラザ新宿つるかめクリニック
・小金井つるかめクリニック

人間ドックでわかること
「脳ドック」「プレミアム脳ドック」を
受けてみませんか?
外来実績他



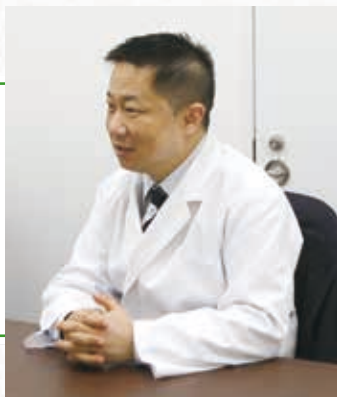
ミラザ新宿&小金井 新院長インタビュー！

今年の春に就任した二人の新院長について
インタビュー形式でご紹介させていただきます。



ミラザ新宿
つるかめクリニック

院長
ちょう げんひん
張 彦彬 先生



—これまでの経歴をお教えてください。

張彦彬と申します。出身は中国の雲南省です。高校を出てから日本に留学し、日本語学校に1年間通った後、1993年に東京医科歯科大学の医学部に合格して2000年に卒業しました。卒業と同時にアメリカのECFMG(※1)を取得し、2003年6月にNプログラム(※2)を通じてコロンビア大学附属のSt. Luke's International Hospitalでさらに3年間研修を行い、アメリカの内科専門医資格を取得しました。日本に帰国してからは、東京医科歯科大学の関連病院である川口工業総合病院で循環器内科をさらに2年間勉強し、循環器専門医の資格を取得しました。そのときに「横浜市で開業してみませんか」というお誘いをいただいたので、青葉区で外来と在宅診療を中心とした個人診療所を開設したんです。

※1 Educational Commission for Foreign medical Graduatesの略で、アメリカ・カナダ以外の医学校で教育を受けた医師に対する臨床研修資格を指す。

※2 米国の教育病院における臨床医学レジデンシー・プログラムに若手医師を派遣する民間プログラム。医療法人社団つるかめ会の西元理事長が主催している。

—ご自身の城を持たれたと。

はい。午前中は心不全や不整脈の患者さんを中心に診察を行い、午後の往診では末期がんの方のもとに伺うことが多かったです。診療所自体は非常に順調だったのですが、「もう少し勉強して、人生に変化を起こすときだ」と思ったので、2020年の頭にオーストラリアにMBA留学に行きました。そうしたらコロナの感染拡大が始まって…。

オーストラリアは出国も入国も制限していたので、滞在が予定より長引いてしまいました。もちろん何か仕事をしないといけないわけですが、自分は医者なので現地での医師免許を取るべく試験を受け、合格して地域の一般内科で内科医として勤務することになりました。

—そこから、つるかめ会で働くきっかけは何だったのでしょうか。

昨年末に西元先生(つるかめ会理事長)に偶然お会いしてご挨拶したところ「医師を募集しているんだけど、どうでしょうか」ということで幸いにもチャンスをいただいたんです。ちょうどオーストラリアの感染状況も一段落して出国もできるようになったので、そのタイミングで日本に戻りました。

—さまざまな国で診療を行ってこられて感じた、ご自身の強みや特徴をお教えいただければと思います。

私の専門は循環器内科ですので、日本とアメリカでは主に内科疾患の診療が中心でした。ただ、開業して末期がんの患者さんを診ていくと、内科だけではなくいろいろなケースに対応する必要があったんですね。そのような状況で他病院を紹介するというのも難しいですし、皮膚疾患や打撲などの診察もできるように勉強してきました。

また、オーストラリアではGP(※3)の資格で診療していたのですが、これはすべての疾患を診なければいけないんです。病院にかかるときは初めにGPの診察を受けて、必要であれば専門医を紹介されるという流れなので。私がいたのが小さい町ということもあり、牧場でケガをした人の治療や、コロナ禍で増加したメンタルヘルス関連の対応など、非常に多くの経験を積んできました。

そのようにたくさん勉強をさせていただいたので、内科だけではなく全人的に診ていけるようになったのが自分の特徴かなと思いますね。

※3 General Practitioner(総合診療医)の略。

—新院長に就任されるにあたって、どのようなクリニックを目指していきたいのでしょうか。

ミラザは日本一のターミナル駅である新宿駅前の賑わった場所にありますが、前院長の杉原先生は其中で理念である「ことわらない医療」を実践されていました。私もその理念には非常に賛同しておりますので、引き続きいらしゃった患者さんをできる限り診察できるよう、医師・職員で力を合わせて頑張っていきたいと思います。

それに加えて、近隣に飲食店が多いためか女性の患者さんも多いので、婦人科と乳腺科をさらに充実させること。また、今はコロナで観光客は減っていますが外国の方もたくさん来られるので、安心してご受診いただくことも目標にしています。

—最後に、受診者およびクリニックニュースの読者の皆様にメッセージをお願いします。

医療の原点に立ち返りますと、人間の苦しみを取り除くことが根底にあると思います。現代医学は発展を続けていますが、それでもがんなど効果的な治療が難しい病気もあるので、後の苦しみを防ぐために早期発見・早期治療が重要です。

まだ就任して日が浅いですが、つるかめクリニックは健診の体制や設備が現代的で非常に充実していると実感しているので、一流の医療を提供することで皆様の健康に貢献していければと考えております。自分の身体のことでも不安な点などありましたら、ぜひ早めに受診していただければと思います。



小金井
つるかめクリニック

院長
たなか まこと
田中 真人 先生



—これまでの経歴をお教えてください。

私は1988年の東京大学卒業と同時に三井記念病院の研修医試験を受け、迷いなく外科医を志しました。というのも、小さい頃から「手術がしたい」という思いがあったからです。子どものときはしょっちゅうケガをして近くの病院の先生に縫ってもらっていましたが、そのときに傷がきれいに治るのを見て不思議だな、自分でもやってみたいということで自然とその道を選びました。

東大では同級生が約100人いましたが、その当時は今のような初期研修制度はなかったので、卒後すぐに東大病院以外で研修したのは5人くらいでした。入職後は消化器外科医を目指していたのですが、心臓外科や乳腺外科、救急科など4年間いろいろなところを経験した結果、呼吸器外科を選びました。肺癌の手術で非常に有名な先生がおられ、その先生に魅了されたのがきっかけですが、さらに2年間三井記念病院にお世話になり、呼吸器外科医としてのスタートを切りました。

—その後から現在に至るまではどうでしょうか。

聖路加国際病院に4年間、築地の国立がん研究センター中央病院で2ヶ月間手術を勉強させてもらってから、東大病院の呼吸器外科に入局しました。母校には5年間いましたが、やはり手術を極めたいという気持ちがあったので、茅ヶ崎市立病院の呼吸器外科立ち上げを契機に部長として着任しました。そこで7年間勤めた後、つい先日まで在職していたJR東京総合病院に移り、12年間呼吸器外科の手術を任されてきました。

—先程、手術がしたくて医師を目指したとおっしゃっていましたが、実際にいくつもの手術を行ってこれて、気持ちはどう変化されましたか。

昔は外科医が手術するにあたって、これは仕方ない、と許容されることが多かったと思いますね。例えば傷跡が大きく残ったとしても治療がうまくいけばよかった時代でしたし、術後のケアも十分ではありませんでした。しかし、今では傷跡をできるだけ残さない術式や術後の痛みに関する配慮などいろいろ進歩しています。

そして私が外科医であった30年余りの間で、純粋に自分の専門知識を追い求めるだけでは外科の仕事は全うできないことを感じました。つまり専門外の領域も勉強することで、患者さんに対して最善の治療ができるということです。

—なるほど。つるかめ会に来られたきっかけは何だったのでしょうか。

長い医師人生を過ごしてきて、このまま外科医として続けていくのかどうかを考えていたとき、共通の患者さんがいたことで偶然西元理事長とお話する機会がありました。「そろそろメスを置くかもしれないです」と話したところ、それなら、ということでのつるかめ会にお誘いいただき、小金井つるかめクリニックの新院長として赴任させていただきました。

—医療の最前線で長年ご活躍されて実感した、ご自身の強みや特徴をお教えいただければと思います。

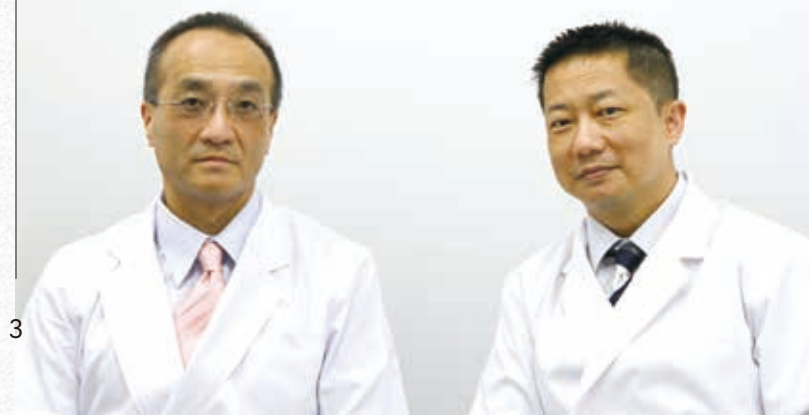
ただ手術をするだけではだめだと先ほどお話ししましたが、例えば一枚のレントゲン写真を見て異常があるかどうかを発見する、異常があったならCT撮影するかどうか判断する、CTの画像診断で治療の方針を決める、そういったスキルも医師には必要です。私は、診断および今後の治療に役立つ情報を得ることについては特に心がけて努力してきました。つるかめ会でも、呼吸器疾患を中心として多様な疾患にわたってこれまでの知識や経験を活かし、力を発揮していければと思います。

—小金井つるかめクリニックの新院長として、地域の皆様にとってどのような医療機関でありたいかお教えいただけますか。

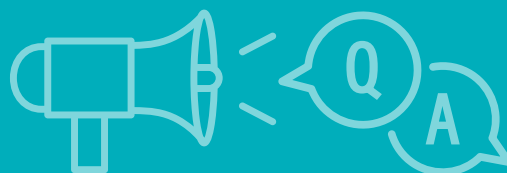
武蔵小金井は新宿にも電車1本で行けますし、三鷹や立川などの大きな駅も近くにあるベッドタウンです。通勤で利用する方々も多いでしょうし、またそのご家族の診療も中心になると思います。一般外来はもちろん健診にも力を入れて、ご自宅の近くで安心して受診したいというニーズに応えられるよう、クリニックの環境を整えてまいりますのでぜひ皆様に来ていただければと思います。

—最後に、受診者およびクリニックニュースの読者の皆様にメッセージをお願いします。

私は医師として3つのモットーを持っています。1つ目が「Patients first」、患者さんを第一に考えるということ。2つ目が「Deliver the best」、自分が持ちうる知識や技術をすべて提供して患者さんの役に立つということ。3つ目が「With all workers」、医療は医師だけで行うものではなくスタッフ全員でチームとなる必要があります。これらのモットーとつるかめ会の理念を守りながら、皆さんに気軽に来ていただけるクリニックを目指してまいります。まずは相談だけでも大丈夫ですので、ぜひご来院ください。

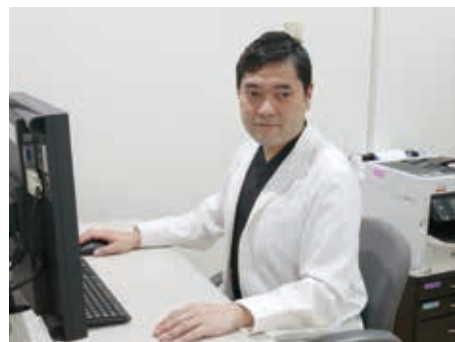


つるかめ会の誇る 内視鏡検査



内視鏡は、病変を直接観察して診断し組織の採取・切除もできる優れた検査です。しかしながら、過去の体験から「あれは苦しい検査だ」というイメージが広まっており、敬遠しがちな人もいらっしゃるかと思います。

つるかめクリニックは、内視鏡検査において確かな実績があり高い評価を受けています。今回は、内視鏡の実情とメリットをお伝えするため、新宿つるかめクリニックの副院長で消化器内科の専門医である田中龍先生にお話を伺いました。



——内視鏡検査を受けると、何がわかるのでしょうか。

内視鏡にはいわゆる「胃カメラ」と「大腸カメラ」の2種類があります。上部消化管内視鏡検査(胃カメラ)では、食道・胃・十二指腸の疾患を中心に、咽頭部も可能な範囲で観察します。これにより、逆流性食道炎・食道がん・胃炎・胃潰瘍・胃がん・十二指腸潰瘍などの診断や、ピロリ菌の有無を推測します。

下部消化管内視鏡検査(大腸カメラ)では、大腸の疾患を中心に、肛門や小腸の終わりの部分も可能な範囲で観察します。ポリープやがんなどの腫瘍性疾患に加え、クローン病や潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患の診断も可能です。

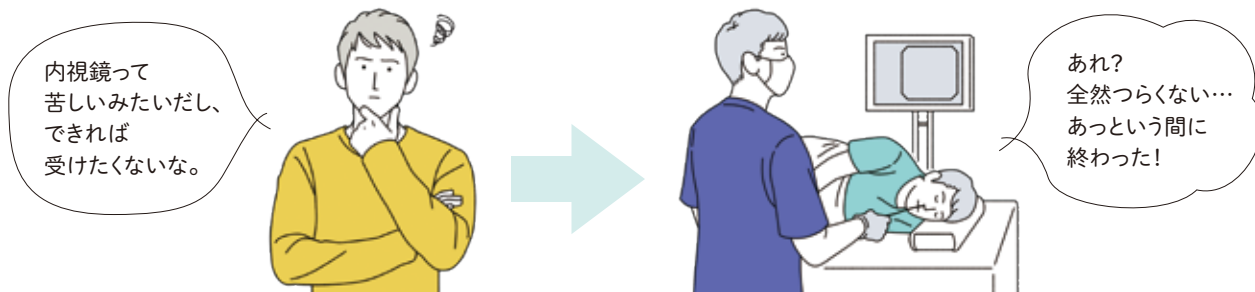
——「胃カメラが嫌だからバリウムにする」という方もいらっしゃいますね。

そうですね。健診ではバリウム検査(消化管造影検査)を選択される方もいらっしゃるのですが、胃カメラのほうが微細な粘膜の状態を確認できるので、早期病変の発見に優れています。かつ、怪しい病変はそのまま生体検査を加えることにより良悪性の判断などで診断を深めることができます。

——とはいえ、内視鏡はつらそうなのでできれば避けたいという人もまだ多いかと思います。

当クリニックでは、鎮静剤を使用することによりほぼ苦痛のないまま検査を受けられます。過去に内視鏡を受けて大変な思いをされた方や、マイナスのイメージを持っている方が、当院の検査後にそれを払拭できたというお声も多くいただいています。中には、これならバリウムより楽だという方もいらっしゃいます。

たまに「あっという間に終わった!先生すごい上手!」と喜んでいただけるのですが、残念ながら私の実力ではありません(笑)。鎮静剤の効果です。



——なるほど。その他の点で、つるかめクリニックで内視鏡検査を受けるメリットはなんですか。

まず、他にはない確かな経験と実績が挙げられます。新宿本院だけでも、年間で胃カメラを約21,000件、大腸カメラを約3,500件実施しており、これは病院を含めて都内でもトップレベルです。

胃カメラと大腸カメラを同日に受けることができるのも大きな特徴です。もし大腸カメラでポリープが見つかった場合、入院が必要な場合を除けば、そのままポリープの切除まで可能です。

— 検査を担当されるのは、田中先生の他にもどんな方がいらっしゃいますか。

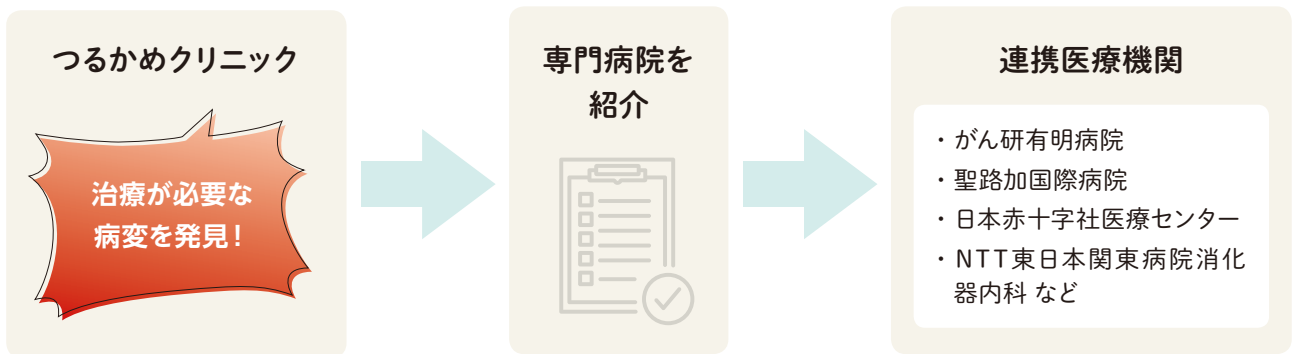
内視鏡検査は、経験豊富な施行医師が担当します。そのほとんどは日本消化器内視鏡学会が認定する内視鏡専門医の資格を有しています。

その他の専属スタッフも、日本消化器内視鏡学会が認定する内視鏡技師免許を7名取得しており、今後も資格試験受験予定者が控えているなど、常に自らの技術の向上と最新の知識を身につけるよう心がけています。また、今年度から常勤の女性医師を2人お迎えしましたので、女性医師に内視鏡を担当してほしいというご要望にも対応していきます。



— もし検査で異常が見つかったら、どのように対応されるのでしょうか。

何らかの異常があった場合、後日もう一度お越しいただくのではなく、すぐに外来診察が受けられるので安心です。その結果、がんなど治療が必要な病変が発見されたとしても、大学病院・がん専門病院・内視鏡治療に強い病院と緻密な連携を取って、責任を持って紹介にあたらせていただきます。



— 診療を行う際に心がけていることや、他の医師・スタッフに徹底していることはありますか。

第一に、とにかく安全な検査を心がけることです。当院の検査の半数以上は健診で、症状のない健康な方に侵襲性のある内視鏡検査を行う以上、安全性には細心の注意を払っています。

第二に、丁寧に対応することです。健診や検査を受けにいらっしゃる方、特に初めての方などは緊張されるケースも多いので、丁寧な対応で不安を軽減していきます。

— 最後に、お越しになられる受診者の皆様にメッセージをお願いします。

まず、当院ですでに内視鏡検査を受けていらっしゃる方に向けて。私たちはより良い内視鏡室を目指していきます。お気づきの点があれば、ぜひおっしゃっていただければ幸いです。

そして、内視鏡検査が苦手な方、怖いイメージのある方に向けて。実は私自身、咽頭反射が強いので胃カメラを受けるのは苦手です。まだ駆け出しの頃、後輩の消化器内科医に練習と称して胃カメラをしてもらいましたが、その辛さを思い出すと今でもぞっとします。

今では私自身も当院で鎮静剤を使用して胃カメラを受けていますが、一度経験したら鎮静剤なしにはもう戻れません。あなたこそ当院で検査を受けてみてください。きっとご満足いただけると思います。





大都市・新宿を支え続けて30年以上。

健康の維持、病気の早期発見から最適な外来診療まで

一貫した医療サービスをご提供いたします。



新宿つるかめクリニック

クリニックからのお知らせ

- 当クリニックには以下の診療科目がございます。

循環器内科 消化器内科 糖尿病代謝内科 呼吸器内科 腎臓内科 血液内科 リウマチ・膠原病内科 神経内科 漢方科
耳鼻咽喉科 整形外科 眼科 泌尿器科 皮膚科 脳神経外科 婦人科 乳腺外科 内分泌外科 ペインクリニック

どの科を受診すればいいかわからないような症状の方はまず「総合内科」をご利用ください。適切な科へご案内いたします。ご受診者様の利便性を考え、多くの専門科を同日に配置していますので、1日に複数の診療科を受診することもできます。毎日同時に行っている健康診断からの2次検査なども、外来診療と連携して早期に的確に行うことができます。

また、当クリニックでは耳鼻咽喉科の需要が多く予約が取りづらい状況となっており、ご迷惑をおかけしました。2022年より診察室を2室に増やして対応しておりますので、ご利用いただければと存じます。耳鼻咽喉科は従来の耳・鼻・のど、めまいの症状に加え、頭頸部外科といって頸部のがんや聴神経などの一部脳外科的な疾患にも対応しております。

検査のご紹介

● マルチスライスCTのご紹介(放射線技師長より)

マルチスライスCTとは1回転で広い範囲を細かく早く撮影できるCTのことで、これにより従来のヘリカルCTより時間分解能が格段に良くなりました。検査時間が短縮することで被ばく線量を大きく低減することができるため、健康維持の観点からも優れた医療機器であるといえます。一般の医療機関では16列から32列程度の装置であることが多いところ、当クリニックでは80列のマルチスライスCTを所有しています。健康診断のみならず、精密検査にも十分対応できます。

● 消化器内視鏡検査のお勧め(消化器病センターマネージャーより)

胃・大腸内視鏡の検査を躊躇される方から、その理由として「辛い」「痛い」検査だからということをよく耳にします。内視鏡検査は病気の早期発見につながる精密検査ですので、いやなイメージだけで検査を受けないのは健康管理の面からはマイナスです。

当クリニックでは、鎮静剤を使用し眠って検査が受けられるため、一度受けてみていただければ悪いイメージを払拭できると思います。検査の際には緊張されることと思いますが、消化器病センタースタッフ一同、ご不安を取り除けるよう笑顔で対応させていただきますので、安心してご受診ください。

● 肝臓エラストグラフィ検査のご紹介(臨床検査技師長より)

腹部超音波検査では、肝臓、胆のう、すい臓、腎臓、脾臓の5臓器をメインに検査を行っています。近年の傾向として、運動不足や食生活の偏りにより「脂肪肝」の指摘が多くなっております。肝臓に脂肪が多く付くと負担がかかり、肝臓の機能を衰えさせます。当クリニックでは、「肝臓エラストグラフィ」という肝臓の硬さを診る検査があります。脂肪肝から肝臓の線維化が進み肝硬変を発症するケースもありますので、早期発見のためにも是非受けてみてください。

院内薬局からのご案内

● クリニック・病院の正しいかかり方

受診する時に、是非担当医にお話ししてほしいことがあります。前回診察日からの体調の変化、服用している薬の服薬状況(飲み忘れなど)などです。薬の飲み忘れを話すと担当医から叱られるなどと考えて内緒にすることはお止めください。

● 処方された薬は自己判断で服薬をやめないでください

医師は前回処方した薬を飲んでいものとして診察します。病状が良くなければ薬を変更したり、用量を増やしたりすることになりますので、きちんと指示通りに服用してください。なお、医師から自己調節可能との指示があった場合はこの限りではありません。

● 4月からシップ剤処方の枚数上限が変更になります

2022年4月より健康保険で処方できる枚数の上限が1処方あたり9パック(63枚)になります。

※医療機関、診療科に関係なくひと月の総数での制限になりますのでご注意ください。

TOPICS

Wi-Fiのご案内

院内Free Wi-Fiを完備しました！院内での滞在時間を有効にご活用ください。各所にQRコードを掲示していますので簡単にアクセスできます。

LINEでの診察お呼び出しについて

外来診療にて、LINEアプリを利用して診察の順番前にお呼び出しすることができるようになりました。ご希望の方は、受付時にお申し出ください。

一部外来のWeb予約開始

健康診断Web予約申し込みに続き、一部の外来診療科(耳鼻咽喉科・皮膚科・乳腺外科)でもWeb予約を開始しました。当院ホームページよりご利用ください。



外来Web予約はこちらから



2018年、新宿駅中央東口から徒歩1分の地に開院。

「安心して相談ができるアットホームなクリニック」を目標に、

“断らない医療”を実践しています。

ミラザ新宿つるかめクリニック

新院長からのご挨拶

2022年4月より当院院長に就任しました張彦彬です。私は2000年に東京医科歯科大学医学部を卒業後、日本、米国、オーストラリアの医師免許を取得して総合内科医として臨床医学を研鑽してまいりました。また循環器疾患を中心に研修を行い、日本循環器学会専門医でもあります。高血圧、狭心症、不整脈、心不全などの循環器系疾患を中心に世界の舞台で内科医としての活動を行って参りました。

2019年から2020年に発生した新型コロナウイルス感染症はパンデミックとなり、世界からたくさんの尊い命が失われてしまいました。そして、世界各国で医療体制がひっ迫し、都市閉鎖となるロックダウンが繰り返されました。

私がいたオーストラリアでも4ヶ月に渡る都市閉鎖と夜間外出禁止令が出されていました。感染不安やロックダウンにより、人々の行動範囲が著しく制限され、医療において

も患者様が思う様な治療を受けられないことをしばしば眼にしました。そういう時こそ、総合診療医 (General Practitioner) の役割がより重要になっています。病気を心身から全体的に診療し特定の専門分野に着目せず、赤ちゃんから老人まで全ての人の全体的な健康問題に向き合って治療を行わなければならないと思います。

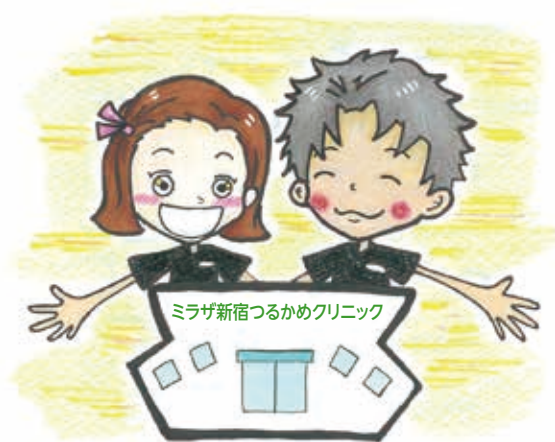
私も患者様の体調を全人的に管理することにより、生活習慣病の予防、メンタルヘルスのケア及び悪性腫瘍などの早期発見とそれに繋がる治療を心掛け日々の診療に専念していきますので、是非当院をご利用ください。



院長 張彦彬



看護科のご紹介



皆様こんにちは。当院では、健康診断や外来通院でご来院される方がおります。初めての方や不安な方に寄り添い安心して検査をお受けいただけるよう、分かりやすく丁寧な説明を心がけています。また明るく清潔な環境でご受診できるように、フロアはこまめに清掃を行い気持ちのよい環境づくりに取り組んでおります。

当院の強みである内視鏡に関しては、現在内視鏡技師免許の資格取得の為にスタッフは日々勉強し、技術の向上を目指しております。受診される皆様が安心・安全に検査を行えるように努めてまいります。

至らない部分はあるかと思いますが、気になることがございましたら、お気軽にお申し付けください。

看護科スタッフ一同

TOPICS

ネット予約が可能な診療科追加

血液内科、総合内科のネット予約を始めました。

※婦人科・乳腺科も引き続き『初診ネット予約』受け付け中。



婦人科・乳腺科は毎日対応

女性医師・技師による婦人科・乳腺科の受入を月曜日から土曜日まで対応しています。女性特有のお悩みもお気軽にご相談ください。

レディースデイの移動について

好評いただいている『レディースデイ』が毎月第三土曜日に移動しました。

※医師・スタッフ・受診者がすべて女性だけのレディースデイとなります。

その他のお知らせ

●ブログでの情報発信

患者さんが知りたい情報、知ってほしい情報をブログで発信しています。当院ウェブサイト『ブロッグ一覧』をご覧ください。

ブログはこちらからご覧になれます



●胃・大腸カメラの同日実施が可能です。また鎮静剤を用いた苦痛の少ない内視鏡検査も導入しており「寝ている間に検査が終わって楽だった」との感想も多くいただいております。



駅から徒歩1分の好立地。

多摩地区で随一の幅広い診療科と、

抜群のチームワークで皆様の健康を支えます。

小金井つるかめクリニック

新院長からのご挨拶

私は大学を卒業してすぐに三井記念病院で外科医としての研修を開始し、聖路加国際病院、国立がん研究センター中央病院、東大病院、茅ヶ崎市立病院、JR東京総合病院で肺がん、縦隔腫瘍、気胸といった呼吸器外科手術に数多く携わってまいりました。そしてこのたび、2022年4月1日より小金井つるかめクリニックの院長として着任致しました。

当クリニックは、外来診療は糖尿病内科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、婦人科や乳腺外科など幅広い診療科を展開しており、各科専門医師が診療を行っております。また胃と大腸の内視鏡やCTをはじめとして、検査体制も大変充実しております。ほぼあらゆる疾患の診療が可能です。そして入院や手術が必要な方には、疾患やお住まいを考慮して最も適切と思われる提携医療機関へご紹介をさせてい

たきます。

また私の専門分野である肺がんの治療では、最近の画像診断の進歩により、肺がん、特に数ミリ径の早期肺腺がん症例を見つけやすくなってまいりました。しかし、それら全ての方に手術や化学療法が必要なわけではありません。定期的な画像検査のみで十分な方もいらっしゃいますので、いつでもご相談ください。

私のモットーは①Patients first(いつも患者さんの立場にたつ)、②Deliver the best(最高の診療を行う)、③With all workers(スタッフ全員のチームワーク)です。どうぞお気軽に当クリニックを受診なさってください。



院長 田中 真人



呼吸器(肺がん)の検査について(田中院長より)

私は胸部疾患(肺や縦隔、胸壁疾患)の手術を多数手がけてきましたが、特に肺がんの手術を得意としていました。肺がんの手術の基本は肺葉切除とリンパ節郭清です。右肺は上葉、中葉、下葉の3つ、左肺は上葉と下葉の2つの肺葉があり、平均的な容量比は右上葉:右中葉:右下葉:左上葉:左下葉=3:2:5:5:4といわれています。このため、術前の呼吸機能に異常がない患者さんにとって肺葉切除術後の呼吸機能の低下は問題にならないことが殆どです。

しかし、最近では肺葉切除まで行わなくても根治性が得られる早期肺がん症例が見つかるようになりました。具体的には、腫瘍からある程度の距離を確保したところで肺を部分切除するだけにとどめます。現在ではロボット手術が主流となり、小さな傷で安全に肺がんの手術を受けていただけるようになりました。

CT画像を拝見させていただければ、その患者さんにとって最善の治療方法(例えば手術がよいか、手術以外の治療方法がよいか、また手術を受けていただくとしたら、どんな術式が理想的であるか、など)を提案できると思いますので、次のような方は当クリニックへ是非お越しください。

- ① 健診の胸部レントゲンで異常があります、と言われた方
- ② 胸部CTを受けられて治療が必要です、と言われた方
- ③ 肺がんが心配な方

ご来院をお待ちしております。

当クリニックの診療について

外来診療は、内科全般から乳腺外科・婦人科といった女性特有の診療科、泌尿器科や皮膚科まで幅広い診療科を開設しております。また、胃カメラ検査・大腸カメラ検査にも力を入れており、胃カメラ検査は年間11,000件以上、大腸カメラ検査は年間1,500件以上を実施しております。胃と大腸同日の検査も可能です。

また、当クリニックでは健康診断も受診可能です。小金井市民の方の健康診断をはじめ、小平市や府中市、国分寺市の各種検診も実施しております。様々な健康保険組合の人間ドック・健康診断にも対応しております。個人での受診ももちろん可能です。ぜひお気軽にご相談ください。

TOPICS

2021年度実績

当院の2021年度実績について以下のとおり報告いたします。

外来受診者数	65,126人
健康診断受診者数	23,353人
胃内視鏡検査数	11,035人
大腸内視鏡検査数	1,799人



人間ドックで わかること



将来的に健康で過ごせる時間を長くするため、ぜひ受けていただきたい人間ドック。ここでは、今まで知っているようで知らなかった検査項目・検査結果の解説や、結果を自分の生活に反映させるヒントを紹介していきます。

検査内容

検査項目	検査内容	
内科診察	問診・聴診・血圧	
身体計測	身長・体重・肥満度(自動計算)・BMI・腹囲	
眼科検査	視力・眼底撮影・眼圧測定	
聴力検査	オーディオ(1,000Hz / 4,000Hz)	
呼吸器検査	肺機能検査 (1秒率、%肺活量、%1秒量、対標準1秒量など)	
胸部X線検査	直接撮影(2方向)	
循環器検査	心電図(安静時12誘導)・心拍数	
胃部検査	胃部X線(直接撮影平均12枚)、又は内視鏡検査	
腹部超音波検査	肝臓・胆嚢・膵臓・脾臓・腎臓	
尿検査	蛋白・糖・ビリルビン・ウロビリノーゲン・潜血・PH・沈査	
血液検査	血液一般	赤血球数・白血球数・ヘモグロビン・ヘマトクリット・血液像・血小板数・MCH・MCV・MCHC
	肝機能	GOT(AST)・GPT(ALT)・γ-GTP・ALP・総ビリルビン・LDH・コリンエステラーゼ・総蛋白・アルブミン・A/G比
	膵機能	血清アミラーゼ
	腎機能	尿素窒素・クレアチニン・eGFR
	脂質	総コレステロール・HDLコレステロール・LDLコレステロール・Non-HDLコレステロール・中性脂肪
	糖代謝	血糖・HbA1c
	痛風	尿酸
	貧血	Fe
	リウマチ	リウマチ因子定量
	炎症反応	CRP(定量)
	電解質	Na・K・Cl・Ca
	感染症	TP抗体(定性)・HBs抗原・HBs抗体・HCV抗体
	血液型	ABO式・Rh式
大腸検査	便検査	便潜血反応(2回法)

血圧の数値は、血管の壁にかかる圧力の程度を指します。高血圧の状態が続くと心臓や血管に負担がかかり、脳卒中・心筋梗塞・動脈硬化を起すリスクが高まります。



腹囲やBMIが基準値以上の人は、内臓脂肪の蓄積により生活習慣病(高血圧・脂質異常症・糖尿病など)を引き起こす物質が増えるため、早めの対策が望ましいです。



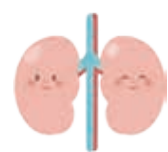
いわゆるレントゲン撮影で、胸部にある臓器(肺・心臓・大動脈など)に異常がないかを調べます。肺炎、肺結核、気管支炎、心肥大、大動脈瘤などの異常が見つかるケースがあります。



血中の酵素等を測定することで、人体の中でも多くの役割を持つ臓器である肝臓の働きを調べます。過度の飲酒以外でも数値は悪化するので、原因をしっかりと調べる必要があります。



血中のタンパク質等を測定し、腎臓の機能低下がないかを調べます。機能が低下していると、老廃物の排除や水分量・血圧を調整する働きなどが悪くなっているので慢性腎臓病(CKD)の恐れがあります。



血中の脂質バランスを調べます。バランスが悪い状態(LDLと中性脂肪が高い、HDLが低い)だと血管が詰まりやすく、脳卒中や心筋梗塞を起すリスクが高まります。



ブドウ糖をエネルギーに変えるインスリンの働きが悪くなると血糖値が上がります。高血糖の状態が続くと血管が傷つきやすくなり、糖尿病の合併症を発症する可能性があります。

※女性は乳がん検査・子宮がん検査も追加されます。
※検査項目は健診コース等によって異なります。詳細についてはお問い合わせください。

検査結果の見方



A 異常なし

今回の検査の範囲では異常は認められません。ただ、これからも100%異常がないという意味ではないので、心配な点や気になる症状があれば医師の診察を受けるようにしましょう。

B 軽度の異常

基準を外れた項目はありますが、病気を思わせる所見ではなく日常生活に支障はありません。当然ながら個人差はあるため、自覚症状があれば医師の診察を受けるようにしましょう。

C 要経過観察

服薬等の医療措置の必要はありませんが、経過観察を必要とします。食事・飲酒・運動など生活習慣の改善を試み、指示された期間をおいて再検査を受けてください。

D2 要精密検査

異常所見が認められます。医療機関にて精密検査を受け、治療が必要かどうかの判断を受けてください。

D1 要医療

できるだけ早く医療機関を受診し、治療を受けてください。

E 治療中

現在治療中の方は、引き続き治療を継続してください。

検査を受けたら終わり？ 違います！

「要精密検査」「要医療」 があったらすぐ受診を

要医療の場合すぐに受診することはもちろんですが、要精密検査の方もできるだけ早く再検査を受けましょう。受診当日のコンディションにもよるので悪い結果が出るとは限りませんし、しっかり確認することでむしろ安心できます。



毎年受診して比較する

毎年欠かさず受診することで、過去の検査結果と今回の数値を経年的に比較できます。たとえ基準範囲内でも少しずつ悪化している項目がわかれば、今後の生活の見直しにも役立ちます。



人間ドックは 生活習慣改善のきっかけ

「体重が増えたけどまだ大丈夫だろう」「最近全然運動してないなあ」というように健康に不安を覚えつつも動き出せない方は、客観的な数値で目標を設定できる人間ドックをきっかけにして、ぜひ生活習慣を改善しましょう。



皆様へのお願い

健診につきましては、日本総合健診医学会等の健診8団体でとりまとめた方針に基づき、必要な手順や環境を整備し、実施しております。来院時の検温やマスク着用、手洗い等にご協力くださいますようお願い申し上げます。

「脳ドック」「プレミアム脳ドック」を受けてみませんか？

新宿つるかめクリニックおよびミラザ新宿つるかめクリニックでは、脳の健康状態を確認する「脳ドック」に加え、海馬の状態を測定することでアルツハイマー型認知症の早期発見に役立つ「プレミアム脳ドック」が受診できます。

年齢とともに脳は萎縮していきますので、気になる症状がある方はぜひご相談ください。

※検査は提携機関の医療法人永仁会 Seeds Clinic 新宿三丁目で実施します。

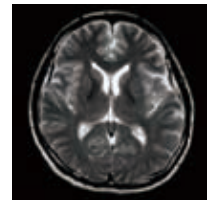


脳ドック

脳の断層と脳血管を撮影する頭部MRI+頭頸部MRA検査にて、現在の脳の健康状態を確認します。

検査でわかること

- 頭部MRI：脳実質の状態（脳腫瘍、脳萎縮の程度、過去に生じた無症候性脳卒中など）
- 頭部MRA：脳血管の様子（脳動脈瘤や狭窄、閉塞など）
- 頸部MRA：頸動脈狭窄



脳MRI画像

さらに… 以下に当てはまる方は、ぜひご検討ください！

- ・最近思い出せないことが増えた
- ・アルツハイマー型認知症が気になる
- ・高血圧・糖尿病等の生活習慣病がある
- ・何をしようと思っていたのが忘れてしまう
- ・睡眠不足やストレスが続く生活をしている
- ・親族に脳の疾患がある人がいる

プレミアム脳ドック

通常脳ドック(頭部MRI+頭頸部MRA検査)に加え、「VSRAD+AI海馬体積測定」を追加しています。

VSRAD(認知症検査)とは？

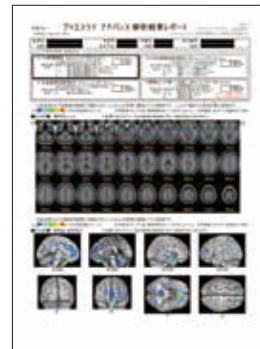
脳のMRI画像をコンピュータ処理し、記憶や学習を司る海馬の萎縮の程度を確認する画像診断支援システムです。

認知症のうち約50%を占めるアルツハイマー型認知症の早期発見に役立ちます。

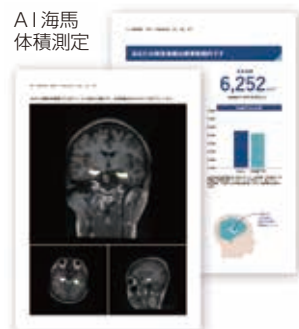
AI海馬体積測定とは？

脳のMRI画像から記憶や学習を司る海馬をAIで測定するプログラムです。加齢と共に変化する現在の脳の状態と形態を経年変化でわかりやすく見ることができます。

VSRAD



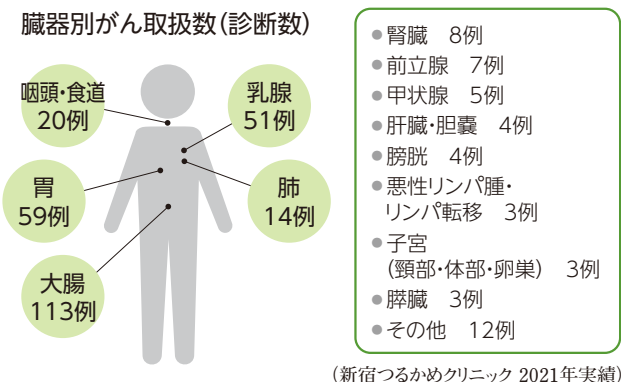
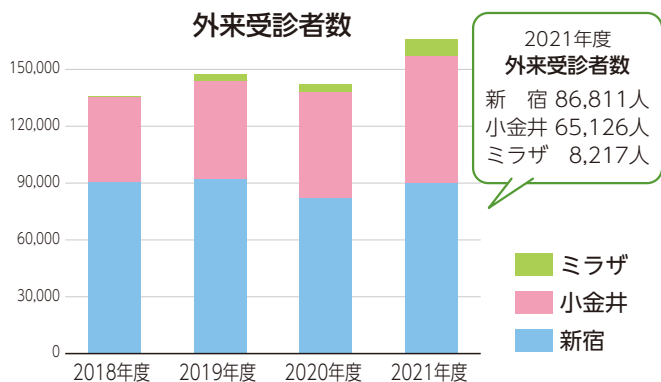
AI海馬体積測定



外来実績

身近で質の高い「総合クリニック」を目指して

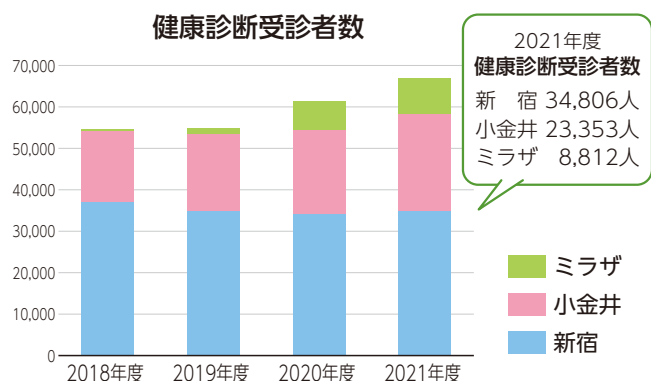
- 消化器内科、循環器内科、糖尿病内科、呼吸器内科、漢方内科、婦人科、乳腺外科、脳神経外科、皮膚科、耳鼻咽喉科、眼科、泌尿器科、整形外科など多数の専門領域をカバーしています。
- 大学病院・総合病院との提携も多く、入院等が必要な場合はスムーズにご紹介できます。



健康診断実績

健康診断による疾患の「早期発見」を モットーに

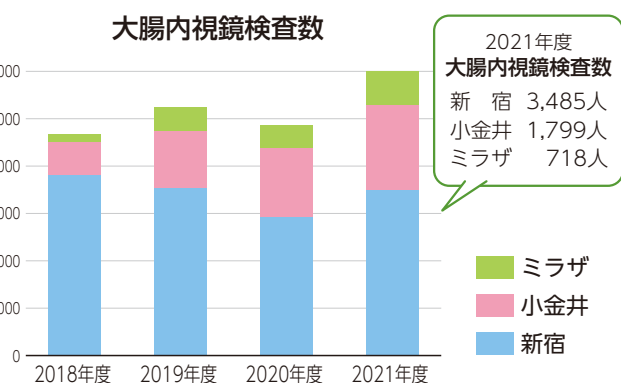
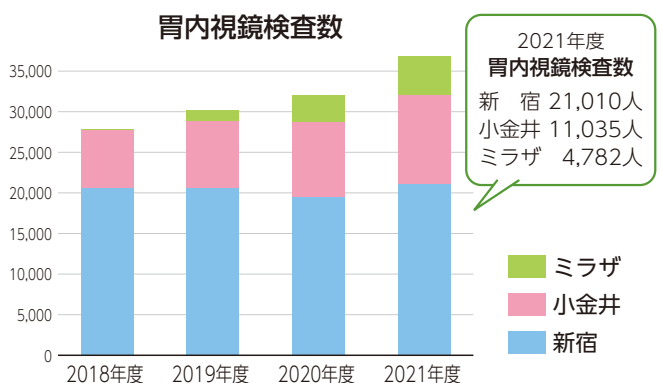
- がん、心血管系疾患、加齢に基づく疾患などの早期診断、早期治療が可能です。健康診断で異常があった場合や症状のある方はそのまま外来診療にご案内できます。
- 日帰り健康診断件数は年間60,000件超。



消化器内視鏡実績

検査精度と安全性を兼ね備えた「内視鏡検査」

- 胃内視鏡、大腸内視鏡は多数在籍する経験豊富な専門医が実施し、同日に両方とも検査できます。年間実績42,000件超。
- 鎮静剤を使用した苦痛の少ない検査を実施します。



3クリニックのご紹介

各クリニックとも天候に左右されない駅近くの好立地です。
安心してご来院ください。

*クリニックニュースは当院ホームページでご覧になれます。

新宿つるかめクリニック

〒151-0053
東京都渋谷区代々木2-11-15
新宿東京海上日動ビルディング3・4階

- JR新宿駅 南口から甲州街道を初台方面へ徒歩5分
- 都営大江戸線・都営新宿線・京王新線 新宿駅6番出口直結

代表・外来予約

TEL 03-3299-0077

FAX 03-3299-4985

月曜日～土曜日
8:30～18:00

健診予約専用

TEL 03-3299-8900

FAX 03-3299-4985

月曜日～土曜日
8:15～17:00

HPはこちら



ミラザ新宿つるかめクリニック

〒160-0022
東京都新宿区新宿3-36-10
ミラザ新宿7階

- JR・小田急線 新宿駅中央東口から徒歩1分
- 都営大江戸線・都営新宿線 新宿駅1番出口から徒歩5分

外来・健診予約

TEL 03-6300-0063

FAX 03-6300-4114

月曜日～土曜日
8:15～18:00

HPはこちら



小金井つるかめクリニック

〒184-0004
東京都小金井市本町6-14-28
プラウドタワー武蔵小金井3階

- JR中央線 武蔵小金井駅南口から徒歩1分

代表・外来予約

TEL 042-386-3757

FAX 042-386-7390

月曜日～土曜日
8:30～17:30

健診予約専用

TEL 042-386-3737

FAX 042-316-7794

月曜日～土曜日
8:30～17:00

HPはこちら

